

◆巻頭語

日本華人教授会議 13年間の成長

日本華人教授会議代表・愛知大学教授 李春利

日本華人教授会議は2003年1月に創立され、これまで会報『東アジア論壇』（東亜論壇）11号を発行してきました。これまで華人教授会議が主催してきた年次国際シンポジウム（過去12回）や各種の学術講演会、研究会の報告記録および講演録などが収録され、さらに時宜にかなった様々な時事問題や世界情勢に関する論文や評論も掲載されてきました。

また、華人教授会議が行ってきた各種のイベント、例えば、日本経済新聞および中国教育国際交流協会と共同主催してきた「全中国選抜 日本語スピーチコンテスト」（中華全国日語演講比賽、2006年から累計で11回開催）の記録や「日本華人教授会議帰国訪問団」（2007年から累計で10回実施）の報告や関連の提案書、感想文なども掲載されてきました。そのほかにも各種行事の記録が数多く収録されております。

以上のような概要の紹介からもわかるように、『東アジア論壇』はまさに華人教授会議の成長記録にほかなりません。多くの会員や招聘されたゲスト講演者、そしてわれわれの協力団体や友人たちがそこに登場し、数多くのメッセージや足跡を残してきました。これらの活動記録は会報巻末の「日本華人教授会議活動記録」などに記載されております。

おかげさまで日本華人教授会議は現在約110名の会員を擁するようになり、日本全国の約60の大学や研究機関、専門機関に所属しており、会員たちは様々な形で日中交流の架け橋として第一線で活躍しております。また、行動する学者・専門家集団として積極的に日本社会に対して情報発信を行い、学術書や論文、またはテレビや新聞、学術会議など様々な場やメディアを通して意見表明を行

ってきました。

2015年は戦後70周年という節目の年にあたり、日本華人教授会議はまず10月12日に、



東京大学山上会館にて「戦争・対立から平和へ—歴史から汲み取るべきものは何か—」と題した戦後70年特別講演会を開催しました。さらに、11月21日に千葉商科大学国際会議場にて中国社会科学院近代史研究所『抗日戦争研究』編集部と台湾中央研究院近代史研究所蒋介石研究群の協賛のもと「戦争・対立から平和へ—歴史研究の現場からのメッセージ—」をテーマとした戦後70周年記念国際シンポジウムを開催しました。

そのほかにも、2015年12月17日に、東京如水会館にて元駐フランス中国大使で中国外交学院元院長の呉建民氏をお招きし、「世界的な局面から見た東アジアと日中関係—日中関係を如何にしてさらに前進させるか—」と題した講演会を、日中科学技術文化センター・日中関係研究所との共催で開催しました。2016年6月18日に急逝した呉氏の訃報に接し、教授会議メンバーたちはあ然として言葉を失い、この著名な外交家を偲びました。

また、今年8月14日に逝去した中国社会科学院近代史研究所元所長の歩平教授も華人教授会議の古き友人であり、何度もわれわれのシンポジウムに出席され、すばらしい研究成果を発表されました。彼は2006年から始まった日中歴史共同研究の中国側座長を務められ、また、日中韓歴史教科書の編集と

いう大変難しいプロジェクトも精力的にこなされました。ここに謹んで卓越した見識を持っておられた両氏の冥福をお祈り申し上げます。

今回は会報第 12 号を発行するにあたり、ひとつの大きな変化があります。長年紙媒体を中心に発行してきた『東アジア論壇』は、今号からは電子ジャーナルに変身し、電子バージョン中心に変わりました。これは時代の流れに乗った措置であり、今後は華人教授会

議のホームページでの掲載と公開が中心になりますが、引き続きご愛読、ご支援を賜れば幸いに存じます。

中国にも日本にも 12 年はひと回りという言い方がありますが、13 年間成長してきた華人教授会議は、会報の電子化により、読者層がさらに広がることでしょう。会員一同気持ちを入れ替えて、次なるひと回りを目指して一層努力する所存ですので、引き続きご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

◆特集：シンポジウム・報道

日本华人教授会在东京召开第 12 届年度国际论坛

人民網 記者 趙松

第 12 届日本华人教授会年度国际论坛 2015 年 10 月 12 日在日本东京召开，包括在日华人教授在内的 100 多名中日两国专家学者参加本次论坛，并就中国当前的技术创新、经济发展动态等话题展开了讨论。

本届论坛主题为“21 世纪中国的技术革新和经济走向”，中国驻日本大使馆参赞沈建国、日本前农林水产大臣林芳正、日本华人教授会代表李春利在论坛开幕式上致辞，前东京大学校长吉川弘之作了题为“基础研究和技術革新”的基调演讲。

本届论坛的主题设定以世界各经济大国围绕制造业新标准的制定展开竞争为背景。中国今年公布了“中国制造 2025”这一中国版的“工业 4.0”规划，以期从制造业大国向制造业强国发展，而与此同时，美国、德国、日本等制造业强国也相继制定了各自的制造业发展规划。围绕未来制造业标准制定的国际竞争越来越激烈，与会专家学者就中国在这一波竞争中面临的课题进行了讨论。

论坛分为经济议程和科技议程两个环节，北京大学教授周建波、东京大学教授丸川知雄、日本同志社大学教授严善平等人在经济议程上围绕中国制造业的发展历史和本世纪的中国创新发表演讲并展开讨论。科技议程的主题为如何从学校理工科教育的角度推动科技创新，重庆交通大学副校长易志坚、埼玉工业大学副校长巨东英、早稻田大学教授金群等在该议程上发言并参与讨论。

本届论坛还举行了以中日关系为主题的特别演讲，早稻田大学教授刘杰、日本中央大学名誉教授姬田光义等围绕战争期间的中日关系以及日本战争责任问题发表了演讲。

据李春利介绍，日本华人教授会于 2003 年成立，目前有 100 多名成员，成员主要是在日本全国约 60 多个大学、研究机构从事教育和研究活动的华人教授和研究者。该团体自成立以来开展了多项中日教育、科研、文化交流活动。